令和　7　年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　1　自己評価及び外部評価結果

1　自己評価及び外部評価結果

事業所名　：　　あお空グループホーム山田

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0393000120		
法人名	有限会社　介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム山田		
所在地	〒028-1321岩手県下閉伊郡山田町山田第19地割51-1		
自己評価作成日	令和8年1月6日	評価結果市町村受理日	令和8年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871　岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

心で見守り　笑顔で支えるを理念とし、職員は日々利用者様に安心してお過ごし頂けるよう努めています。近隣住民の方々との交流もあり、野菜や山菜など旬の物を頂く事もあります。コロナで遠のいていたボランティアの受け入れも徐々に再開しつつあり、ドライブや外出等外に出かける機会も増えて来ています。職員で柔道整復師の資格を持った方が就業し、高齢者向けのストレッチや軽運動を行う機会も増えています。ご家族様に対してもより利用者様の状態をお伝えできるよう近況報告や通院録、写真も定期的に郵送させて頂くようにしました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、自然環境に恵まれた静かな山間部にあり、周囲には民家が点在している。「心で見守り笑顔で支える」という新たな理念を掲げて4年目となり、一人ひとりの利用者の意向や希望を、職員が心でしっかり捉えることを特に意識している。近所からは野菜や山菜の差入れをいただいており、逆に近隣での火事の際には職員が消火器を持って駆けつけるなど、地域内での助け合いができている。今年度はクリスマスには地元ボランティアの受入れや、小正月での「なごみ」の来訪もあり、地域との交流が良く行われている。また、事業所のワゴン車を活用して、利用者の外出の機会を頻繁に確保するようにしており、山田町内のほか宮古市や釜石市、岩泉町方面にも良く出かけ、この取り組みはお花見や紅葉狩りなどの行事がない時も日常的に実施されている。また、食事でも利用者の食べたいものを聞き出して提供することを心掛けており、ラーメンやカレーなど、好まれるものを良く提供して、利用者の楽しみとなるよう努力している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和　7　年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　２　自己評価および外部評価結果

事業所名　：　あお空グループホーム山田

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関、ホール、事務室の3か所に理念を掲示し、都度確認できるようにしている。毎朝の申し送り時に理念を発声している。	外部評価での話し合いも参考にして、職員全員が参加して理念を見直し、令和4年度から「心で見守り笑顔で支える」に改めている。職員が毎朝の申し送り時に理念を唱和し、事業所内に大きく掲示して浸透を図っている。理念が提唱する、「利用者の意向や希望を心で捉えることを意識し、笑顔でコミュニケーションする」ことが、日々のサービスの中で実践されている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣住民の方から野菜や山菜の差し入れをいただいたり利用者様が作った干し柿を提供したり等交流をしている。道を通りかかったご近所様に手を振ったり立ち寄っていただいたりもしている。	町内会の加入はないが、職員は地区清掃に参加している。R7年度には、毎年恒例の中学生の福祉体験のほか、クリスマスにリトミックのボランティア、小正月には地域の伝統行事の「なごみ」も来訪してくれている。近隣から野菜や山菜の差し入れをいただいたり、近隣の火事の際には職員が消火作業に駆けつけるなど、地域の一員としての助け合いがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	山田中学校の生徒さんを招き、福祉体験を行っていただきグループホームという施設についての説明や認知症の症状について等お伝えさせていただいた。初任者研修の講師としても協力させていただいた。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現状報告、日程報告、利用者様の近況、身体拘束廃止検討について、ヒヤリハット等の報告をさせていただき、ご意見やアドバイスを頂戴しています。いただいたアドバイスについては積極的に取り入れるよう努めている。	運営推進会議の委員には、町社会福祉協議会長、地域包括支援センター、民生委員、区長、家族のほか、食生活改善委員、町内の別のグループホームの管理者などの地域の方々が多く参加し、バランスの良い構成となっている。会議では委員から様々な意見や質問が出され、特に災害時の避難訓練に関しては、近所の方々に応援を頼んではとの積極的な提案もあり、意義深い会議となっている。	

令和 7 年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	電話にて入居申し込みの状況や即時受け入れが可能であるか等の調整を行う場合もあった。運営推進会議終了後にイベントへの協力依頼や他事業所での推進会議後などにも情報交換したりと協力し合っている。	運営推進会議には、町直轄の地域包括支援センター職員が毎回出席しており、事業所の運営状況を良く把握してもらっている。町が主催する地域ケア会議には管理者が毎回参加し、行政や関係事業者等との連携を図っている。また、在宅のネグレクトの高齢者について、町から相談があって受け入れるなど、個別事案の連携も行われている。町主催の認知症セミナーにも事業所ぐるみで支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3か月に1回の割合で身体拘束廃止廃止検討会議・研修会を開催している。防犯上の理由から18:00～翌朝5:30までは玄関の施錠をしています。	3ヵ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催しており、会議と併せて研修会も実施している。予め家族の了解を得て、2名の利用者が転倒防止のためのベッドセンサーを使用している。職員によるスピーチロックを見受けられた場合には、その都度管理者が声をかけて注意しているが、セルフチェック等の取り組みには至っていない。	「ちょっと待って」等のスピーチロックに該当する言動について、今後、シートを活用した自己チェックやスピーチロックをテーマとする研修を開催し、意識啓発を図っていくことが期待されます。これは、法人全体での取り組みとすることも考えられます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束の研修会と同日に高齢者虐待についても研修会を開催し、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在制度を利用している利用者様はいませんが、事業所内で成年後見制度についての研修を行いました。		

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 7 年度　　　　　　　　　　　　　　　　2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時に契約書、重要事項説明については口頭で説明させていただいています。その他不明な点についてはその都度説明させていただいている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様から相談がある場合には周りの状況に配慮し、事務室や各居室にてお話を伺うように配慮しています。ご家族からの要望は面会や電話の時にお伺いし、対応させていただいております。	運営推進会議には家族代表も参加し意見等も伺うが、あまり運営に関する話は出されていない。家族には2ヵ月に1回、本人のスナップ写真を添えて、写真入りの広報と近況や通院の状況などをお送りしている。家族からは「衣類や金銭は間に合っているか」等の問い合わせが多い。また、利用者からの相談事がある場合は、事務室で話に耳を傾けるようにしている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りの時に施設内の不備や提案などお伺いするようにしています。また、普段から提案等を話しやすい様配慮しています。	職員から様々な意見が出されており、ケアの内容に関する事項のほか、「エアコンの調子が悪い」などの要望には、その都度対応している。なお、建物の構造上から会議室が無く、プライバシーに配慮した面談ができる環境は十分ではなく、管理者との個人面談も定期的には行えていない。	管理者が職員と個別面談を行うことは、個人的な悩みを含めて職員の率直な話を伺う貴重な機会であるため、場所の確保を工夫し年に1回は行われるよう期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	シフトの希望休や有給取得の調整にはできる限り対応させていただき、働きやすい環境作りに努めている。夜勤の回数や長期休暇にも対応するようにしている。		

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム山田

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	基本的には職場内研修でスキルアップを図っていますが、町主催の研修会にはなるべく参加していただいています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	町内の他事業所の運営推進委員に登録していただき参加させていただいている。また、先方の管理者様にも当時事業所の運営推進会議に参加していただき情報交換させていただいている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	新規入居された方は色々な不安を抱えて入居されていると思うので、特に配慮し表情や言動から本人の気持ちを察するようにし、対応させていただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前の面談、入居当日の契約締結時に不明な点や不安点をお伺いしています。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム山田

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居の数日後にご家族に電話させていただき、数日間の生活状況を伝えたり要望をお伺いしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様の食事の時間、午前中の体操の合間、就寝前のくつろぎの時間に利用者様と会話する機会を持つよう努めています。一緒にお茶を飲んだりリラックスした時間にするよう配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族にはできる限りの情報提供をしたいとの思いから、近況報告、預り金台帳、通院録、写真、広報を定期的に送付させていただいています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	姪っ子さんの経営する床屋さんに出かけたいとの要望がある利用者様については姪っ子さんのご協力をいただき受け入れていただき1日を過ごしてこられる事もあります。自宅に一旦戻りたいと要望がある方をご自宅にお送りし、小一時間過ごして来た事もありました。	暖かい時期には週2回は外出の機会を設けており、行先は利用者と相談して決めている。実家を見に行く方、親戚の経営する床屋でおしゃべりを楽しむ方、馴染みの呉服屋や衣料品店で買物を楽しむ方もいる。出先で偶然、昔からの友人・知人と会うこともあり、入居後も馴染みの場所や馴染みの人との関わりが途切れないよう配慮している。	

令和 7 年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム山田

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の皆様が普段過ごされているホールにおいては利用者間のトラブルや環境に注意し、その都度座席の変更等の対応を取れるように気を付けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	病院に入院となり退居された後に特養との連絡調整を行ったり相談に応じる事もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段利用者様同士で会話されている内容に施設に対しての要望が含まれている場合もあり、職員間でその情報を共有しさりげなく対応できるようにしている。	言葉でコミュニケーションできる方が8人で、他の1人も調子の良い時には簡単なやり取りができる。職員との会話のほかにも、利用者同士の会話の中で本人が何を訴えているかにも耳を傾けるようにしている。「外に出かけたい」「〇〇が食べたい」「夜も水を飲みたい」などの話に一つひとつ対応し、情報内容は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	新規入居される前の生活状況をご家族やケアマネから情報提供していただきケアの参考としている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	食事の摂取状況、バイタルや排泄の状態などから本人の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の状態や本人、家族の意向などを踏まえ課題分析を行って計画書を作成している。3か月に1度モニタリングを行い、日々のケア、本人の状態を確認し必要時担当者会議を開催し回覧する事で全員に周知、意見等も共有して介護計画書作成に活かしている。	ケアマネジャーは他事業所との兼務で1名が配置されており、月に6、7日は当事業所で勤務している。入居の際に本人や家族から聴いた思いや希望をもとに、初回の暫定プランは概ね3ヵ月間として作成している。それ以降も3ヵ月毎に利用者や職員から日々の生活の様子を確認し、ケアマネジャーがモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員の負担軽減を図る為個別記録の様式を変更しています。個別記録の他日誌、水分排泄チェック表、連絡ノートを用い申し送り時に伝えています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族からの要望（例として、旦那さんが亡くなったことを本人には伝えないで欲しい）にはその都度情報共有し対応させていただいています。		

令和 7 年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**2 自己評価および外部評価結果**

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	2か月に1度の割合で床屋さんに来訪していただき、散髪をしていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居される前からのかかりつけ医を受診するようにしている。様々な症状が見られる場合があるがとりあえずはかかりつけ医に相談し、症状により専門医の受診が必要であるかをお伺いするようにしている。受診は基本的に職員の対応で行っているが、ご家族様に対応していただく方もいます。	入居前からのかかりつけ医を継続して利用しており、山田町内の近藤医院や県立山田病院の受診が多くなっている。受診には職員が付き添って対応している。看護業務は、月に2回ほどグループ内の看護師が来訪して健康観察などに対応しており、電話での相談にも応じている。医療面で大きな不安感はないものの、訪問診療の医師がいないことに不足感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月2回の割合で社内配置の看護師に来ていただき、状態を伝えアドバイスを受けています。体調不良や症状が悪化した場合には24時間体制で連絡を取ることが出来る体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族に職員も同行し、病状や診療方針についての医師からの説明を受けるようにしている。入院の際にはホームでの生活状況を看護師に伝え、入院生活の参考にしていただいている。		

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	町内に訪問診療を行っている医療機関が無い為、ホームでの看取りは不可能な状況です。入居時に本人とご家族にその旨を伝え、了承を得ている。	重度化した場合の対応について、入居時に本人と家族に説明し了解を得ている。看取りについては、協力医師の確保が難しいため、現状では取り組んでいないが、看取りに近い状態までケアを続けた例はある。介護度が3以上となったり、入浴時に自身で浴槽を跨げなくなった場合には、特養施設などへの住み替えの支援を行っており、療養型病院に移る方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルを整備し、有事に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日勤帯想定の火災避難訓練、夜勤帯想定の火災避難訓練、水害想定避難訓練3回を行っています。職員の半数が入れ替わった事もあり、日勤想定は新規職員を中心に行いました。昨年3月に実際にご近所で火災が発生した際には職員2名が消火器3本を持参し現場に駆けつけています。	事業所はハザードマップでは浸水や土砂災害の想定地域外となっている。火災や水害想定の避難訓練を年3回実施しており、2月には薄暮時に夜間想定訓練を実施する予定となっている。2階には7人の居室があり、特に夜間での避難には大きな困難を伴うことは、事業所として認識しており、近隣住民の協力が得られるよう話し合いを進めることとしている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	新規入居時に契約書類にて個人情報の取り扱いについてご説明をさせていただいています。広報への掲載の可否も確認を取ったうえで行っています。異性によるケアに抵抗がある方もおられるので慎重に協議し対応しています。	利用者一人ひとりの性格を考慮し、職員は丁寧な声掛けを行うようにしている。異性介助に抵抗感がある方には、同性介助とするよう配慮している。排泄の失敗等の際には、本人が傷つかないよう、その気持ちに配慮して、周りに気付かれないようにそっと優しく声をかけて対応している。居室にはノックして、声をかけたうえで入室している。	

令和 7 年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	レクリエーション時に好きな食べ物の意向を確認し、可能であれば提供させていただいています。また、その時々の機嫌により行動に抵抗がある場合にもなるべく本人の意思に沿えるよう注意しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	外出を希望される方がいて、可能であれば外出の支援をさせていただいたりと本人の意思を尊重出来るケアを目指しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣料店に出かけたいと希望される方にはご家族と連絡を取ったうえで了承を得て対応させていただいています。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	山菜の下準備、野菜の芽取り、団子などのおやつ作り等も利用者様と一緒に行っています。毎日のお盆、食器拭きも職員と一緒に行っています。紅葉ドライブの際には初めての外食を行い、喜ばれました。	朝と夕方のご飯とみそ汁は職員が作り、副食は配送の冷凍食品を取り入れて調理し、昼食は副食も職員が作り提供している。おかゆやミキサー食にも対応している。職員は食べたいものを利用者から聞き、ラーメンやカレー等は昼食で提供し、希望の多い刺身などは敬老会などで提供し喜ばれている。外出した際には、食堂にも立ち寄り、好きな昼食を注文したり、ソフトクリームを食べることも利用者の楽しみになっている。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム山田

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量と水分摂取量はチェックシートに記入し把握できるようにしています。医師からの助言によりトロミ食へと変更になった利用者様もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時と毎食後、促しにて口腔ケアを行っています。自力でできる方は自身で行っていただき、不可能な方は職員のケアにより行っています。就寝前には義歯の消毒も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排尿、排便チェック表に1日の排泄状況を記入し、チェックできるようにしています。立位が難しくなってきた利用者様がそれでもトイレで排泄したいとの思いにも応え、対応させていただいています。	おむつの使用者は3名、リハビリパンツ使用者が4人で布パンツで自立の方は2名となっている。また、1名が夜間のみポータブルトイレを使用している。職員は排泄チェック表も活用しながら、適時の声掛けと誘導により丁寧なケアを行っている。在宅時には不安によってトイレが頻回となっていた方が、入居後は心身共に安定して排泄状況が改善している例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日ヨーグルトを提供し、飽きの来ない様ソースや果物を変更し対応しています。便秘気味の利用者様に関してはかかりつけ医に相談し、下剤の調整をお願いしています。		

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 7 年度　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム山田

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	最低週2回のペースで入浴していただいています。湯花を3種類用意し気分を変えつつ対応しています。時節のゆず湯、菖蒲湯も行い、季節を感じていただいています。現在は入浴に抵抗される事もなくスムーズに入浴していただいています。	入浴は原則として週2回、午後の時間帯に行っている。入浴剤は5種類を交替で使用し、利用者は職員と1対1で話をしたり、歌を歌ったりの時間を楽しんでいる。季節を感じられる柚子湯や菖蒲湯も提供しており、楽しみの一つとなっている。車いす使用者など浴槽に入ることが難しい方には、シャワー浴、足浴なども取り入れている。異性介助に抵抗がある方は、同性介助に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	起床、就寝のタイミングはそれぞれのタイミングに合わせて行っています。睡眠導入剤等用いている方もおられますが眠れないと薬を所望される方には偽薬（ラムネなど）で入眠される方もおられる。また、眠れないと起きてきた方には飲み物を提供し対話後入眠される場合もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全ての薬は職員がお預かりし管理させていただいています。誤薬ミスが起きないよう服薬時には記載してある日付、時間、氏名を呼称し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の作業を行っていただいた後にはねぎらいの言葉を掛けるよう留意していて、本人が達成感を感じられるよう対応しています。また、作業後にちょっとしたお菓子を提供させていただいたりしています。		

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 7 年度　　　　　　　　　　　　　　　　　**2 自己評価および外部評価結果**

事業所名 ： あお空グループホーム山田

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ただ施設にいるよりは外出したいと考えている利用者様が多く、ドライブに出かける頻度は多くなっています。紅葉ドライブでは初となる外食も行いました。帰宅願望のある利用者様についてもご自宅に職員が同行し伺う事もあります。	事業所の6人乗りワゴン車や、会社からの借用車両も活用して外出機会を多く確保するよう努力しており、利用者に喜ばれている。ドライブでは町外の宮古市や釜石市、岩泉町などにも出かけ、お花見や紅葉狩りの時期以外でも、日常的に取り組んでいる。また、事業所周辺の散歩や外気浴も利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居時に利用者様がお金を持つ事は不可能であることを本人とご家族にお伝えさせていただいていますが、金銭を所持していたいとの訴えがある方もおり、ご家族の協力を得てご本人に納得していただいています。衣類などの購入を希望される方に関してもご家族の意向確認を行った上で対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族に電話をかけて欲しいと要望があった場合には取り次いでいます。また、ご家族から本人宛に電話が来た場合にも取り次いでいます。今は手紙を送る方はいませんが、友人から絵葉書が送られてくる方がおり、本人の居室に貼って眺めていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日頃過ごされているホールはエアコンと加湿器で空調管理している。外部の日光の反射や照明の調整も注意し行っています。各居室にもエアコン設置していて温度の調節を行っています。トイレや居室の臭いにも気を配り、消臭スプレーや芳香剤で対応しています。	共有スペース内はエアコンと加湿器により快適に保たれている。テーブルと椅子、大型テレビ等が配置され、大きな窓からの採光もあり、利用者はゆったりとした時間を過ごしている。壁面には、職員と利用者が作った季節感あるミズキ団子や正月飾りなどが飾られ、利用者の行事写真なども あり、明るい雰囲気となっている。	

令和 7 年度　　2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールでの座席は利用者間のトラブルがあった場合などには変更したりと気を配っています。また、その時々により居室で過ごされる方もおります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	コルクボードを全部屋に設置し写真や作品などを貼っています。友人から届いた絵ハガキを掲載している方もおります。衣装ケースやテレビ、ぬいぐるみを持参し居室に配置している方もおられる。	居室は2階に7室、1階に2室あり、各室にはエアコンとベッド、タンス、クローゼットが備え付けられている。利用者は、それぞれにテレビや衣装ケースなどを持ち込んでおり、コルクボードがある壁には、本人の外出時の写真や家族写真などが飾られている。室内はエアコンで適温に保たれ、居心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	館内は全てバリアフリーの作りになっています。1階と2階の行き来はエレベーターで行っています。トイレと浴室には札を付け、場所の認識が出来るよう配慮しています。利用者の各居室には名札を付け位置が分かるようにしています。		